

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・月1回の全体会議の時に参加職員全員で社訓を読むことで、理念の共有実践をしている。言葉かけや態度にも反映されている。	職員にゆとりが無い時でも、理念にある笑顔のケアを、日頃から職員同士で声を掛け合い、気をつけている。また安全のサービスとして、管理者や副主任が必ず出勤している勤務を作成し、医療食とも連携をとりながら、事故の再発防止に努めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会には参加しているが、地域活動に参加することはあまり行ってはいない。	近所の方と利用者が、日常的に挨拶を交わす関係が築かれている。近隣の幼稚園の発表会に招待されたり、ボランティアの慰問がある。秋には御神輿が施設に寄り、写真を撮ったり、利用者が太鼓をたたいたりと楽しんでいる場面もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・高校生の実習受け入れの際には、常にスタッフが見守り、意思疎通の仲介役になり、不安なく過ごしてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・参加者から新聞記事(介護に関する)を提供していただく事もあり、参考になっている。	同法人の小規模多機能と合同で行っている。事故やクレームなどの事例報告も行い、参加者からのアドバイスが議事録回覧にて現場職員のサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回行えていないようです。開催日が随時決定なので、定期的な開催のためにも年間計画での日程作成を期待します。また、避難訓練や事業所内行事のお知らせを事前にする事で、地域の協力を促す取り組みにも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・困難事例などの相談を介護保険課の方にする事で、適切な対応を導いていただく事もある。	ケアマネが困難事例など、介護保険課の職員に相談、報告をしている。現場職員はケアマネに随時相談しており、協力関係が築かれている。研修の案内も市からあり、随時現場職員の参加がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・緊急避難的に居室に鍵をかけさせていたが、それ以外の身体拘束は回避策を検討し、出来るだけ行わないようにしている。	玄関は施錠されている。それ以外の身体拘束はない。月1回の全体会議で、身体拘束に関わる勉強会も行っている。職員同士声を掛け合って見守りができる体制をつくり、身体拘束を行わないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・定期的に虐待に関する研修を行い、意識付けを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・市役所に設置してあるパンフレット(市民向け用)を使って研修を行い、職員に制度の理解を含めた研修を行っている。また、現在、成年後見制度を活用している利用者さんがおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結時に事業所が出来る事と出来ない事を伝えるようにしている。契約改定の際には文書にて利用者さんやご家族にて伝え、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・個別のケアマニュアルを作成し、ケアの参考・対応が出来るようにしている。苦情や意見に対しては、職員から管理者に迅速に連絡し、ご家族や利用者に対応している。	面会簿に要望を書く欄がある。家族面会時に近況報告し、面会簿の案内をしている。外に出して欲しい、皆との関わりを増やして欲しい、化粧をして欲しいなど、できるだけ意見が反映できるように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議の時や業務中、出来るだけ管理者から声をかけ、個別に意見が言えるような配慮をしている。	北・南ユニット職員が集まり、月に一回玄関ホールで全体会議を行っている。9:00から1時間行っており、休日職員の参加もある。日常の中でも管理者が職員に声をかけ、意見や提案が引き出せるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・就業規則はいつでも見れる場所にある。 ・定期的な健康診断を行っている。疲労が気になる職員に対しては、本人と相談し、勤務変更などで随時対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修に参加した職員は必ず全体会議で研修内容を報告することで、他の職員に知識を共有するようにしている。 ・来年2月には、外部からの「キャリア形成訪問指導事業」も予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・連絡会などに参加することで、他事業所の方と交流・意見交換する機会を設けている。同業者との交流は今まで事例がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービス導入時には居心地の良い居住空間を作り、なるべく本人のそばで関わりを持ち、不安や困惑を軽減するとともに、家族からの助言を取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談の際、困っている事やサービスの希望を聞くようにしている。また、必要な情報機関も伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前面接は必ず行い、事前施設訪問も積極的にして頂き、不安の軽減を図るようにしている。相談された内容によっては、即答を避け、後日返事をするなどの対応も取らせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・喜怒哀楽をお互いに表現することで、色々な感情を共有し、感じ支えあう関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入浴拒否のある利用者さんに対して、ご家族が近所の温泉に連れ出し、“気持ち良さ”を味わっていただいたことをきっかけに入浴拒否がなくなるなど、家族の方と一緒に支える事を常に意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人の面会は積極的に受け入れています。贈り物などがあつた場合は必ず、職員が送り主に連絡を入れ、利用者さんの声を聞いて頂くなどの対応をしている。	隣接するサービス付高齢者住宅から兄妹の訪問、北・南ユニット間でも同様の行き来がある。基本的に散髪は訪問だが、中にはなじみの美容院へ行きたい要望があり、行けるように支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・南北両ユニットで気の合う利用者さんを交流して頂く機会を常に設けている。利用者さん同士のトラブル発生時には迅速に職員が間に入り、お互いの意見を聞く事と、お互いを悪者にしない言葉かけをするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後も、詳細な生活情報を関係者にサマリーとして伝え、不安なく新しい環境でその人らしい生活が継続できるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・言葉以外にも、家族からの情報などを参考にし、出来る限り本人の希望や喜びを感じて頂けるような努力をしている。	家族からの情報を基に、担当職員が中心となって、本人の意向を引き出し、把握している。誕生会でお祝いされる方には、食べたいものや行きたい場所の要望を聞き、叶えられるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時、家族にバックグラウンドを提出して頂き、関わりの参考にしている。家族以外の方の面会の際にも、情報収集し、本人の全体像を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ひとりひとりの意向を確認しながら、医師・看護師の指示を合わせて、個々の過ごし方を決めている。日々の関わりの中から、本人の可能性を見つける努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・絶えず観察を行い、状態変化があれば、計画作成者を中心に随時、カンファレンスを開催し、現状に合った計画を作成することになっている。	ケアプラン更新月または随時ケアプランの見直し、カンファレンスを行っている。利用者担当の職員から意見が出るようにしており、家族等との関係者とは事前に話しができており、カンファレンスの内容も報告できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々のわずかな変化も個人記録に記載し、事実を書きとめ、随時、情報を共有しながら介護計画の見直しを行い。適切なサービス提供する努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の安全と安心を最優先に考えながら、出来る限り、ニーズに沿った対応をする努力はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源とのかかわりが希薄なため、ネットワークの構築は今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・常に利用者の身体状況を観察し、異常等あれば、速やかに医師や家族に連絡し、迅速な対応を行っている。	ゆのき医院との協力関係があり、月2回の往診、夜間異常があれば連絡できる体制が整っている。もともとのかかりつけ医に支援を依頼している利用者もいる。歯科も往診があり、皮膚科は近所に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・個々の利用者の既往を理解した上での観察ポイントを職員が周知し、変化等は速やかに看護師に報告し、適切な対応をするシステムを作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中は利用者の状態を病院に確認しながら、出来る限り早期に退院できるよう連携している。信頼できる医療機関もあり、関係も良好である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化していく経緯は常に家族に情報提供し、医療との連携を図り、最大限支援するように努めている。 ・終末期サービスについては検討中である。	終末期サービスは今まで提供したことはない。重度化した場合、病院や特養へ行くことが多い。現場職員も終末期ケアを行うにあたり不安がある。	終末期サービスを今後希望された場合、職員に不安があるようです。ゆのき医院との協力体制も整っているようにも思います。勉強会や研修に参加し、終末期サービス実施を前向きに検討されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事故・急変対応マニュアルに応じ、速やかに職員が初期対応できるよう、定期的に研修でシュミレーションしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に研修・避難訓練を行っている。 ・地域資源の協力体制については検討中である。	詰所にマニュアルがあり、隣接する施設からの応援体制も整っている夜間・日中想定避難訓練も行っている。その際消防署職員の立会いもあり、避難方法についても随時確認が行えている。	過去に床下浸水を経験したようですが、水害時についてのハザードマップ確認等も定期的に行ってみてはどうでしょうか。また、備蓄食や防災用品がないので、有事の際の為に、今後の備えに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ひとりひとりの尊厳を常に意識しながら、すべての職員が言葉かけ・対応をするよう指導している。	尊厳について勉強会が行えており、職員ひとりひとりが、経験上尊厳を意識するケアは利用者にとって一番良いということを理解している。職員の言葉づかいも丁寧で、書類面やケア面でも配慮できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・すべての利用者に対し、情報提供→自己決定の流れで声かけ・対応するよう、職員に指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・起床・就寝・食事・入浴などは一定の時刻には声掛けはするが、本人の意向を最優先し、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣類、身だしなみは自己決定して頂くよう、情報提供(服の選択、化粧水、クリームの使用)している。 ・2か月に1回、訪問散髪サービスも導入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・1回1回、献立をホワイトボードに利用者さんに書いてもらったり、食前のテーブル拭きや食後のお盆拭きなどを手伝ってもらい、食事に関する関心を高めている。	食事は隣接するサービス付高齢者住宅厨房で作られたものを提供している。主治医から指示がある利用者には、現場職員が量の調整や食事形態の変更に対応している。誕生者がいる月には、おやつ作りなど利用者と共に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々の既往に応じて、医師や栄養士と連携を図り、本人や家族の意向も考慮して食事や水分、おやつなどの提供量を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・個々の口腔状態や本人の意向に応じて食後の口腔ケアを行っている。 ・義歯の手入れ、管理も個々の生活リズムに応じて確実にを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個別の尿意・便意の表現を理解し、速やかにトイレに行って排泄して頂くよう、声掛けを行っている。	おむつを全介助で交換する利用者は3名おられる。利用者一人ひとりの排泄の記録をしており、職員が排泄パターンを把握している。前回排泄時間から、空くようであれば誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・起床時、野菜ジュースやコップ1杯の水を飲むことで、自然排便を促したり、下剤服用時、必ずコップ1杯の水分摂取を声掛けで行うことにより、薬効を促す働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴を拒む利用者に対しては、紙パンツが汚れていることを本人に確認・納得してもらったり、信頼している職員が入浴対応するなど柔軟に対応することで入浴を楽しんでもらっている。	一般浴であり、週に3回入れるように支援している。時間もなるべく利用者が入りたい時間に合わせている。浴槽に浸かれないが、座位が保てる利用者には、シャワーチェアを使用している。	利用者の重度化に対して、シャワーチェアが低いなど、ハード面が弱いようです。湯舟に入っている利用者も少ないようです。重度の利用者にも、安楽に入浴できるよう、環境が整うことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の身体状況に合わせ、日中もベッドで休んでもらう時間を設けている。眠れない利用者に対しては日中、散歩や買い物に連れ出す、日光浴・外気浴するなど活動量を増やす努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・確実に服薬するための方法や薬の内容が変わる時の観察ポイントなどを、申し送りノートや職員会議で周知している。お薬ファイルを作成し、薬内容が把握できるようにし、状態変化、副作用などは記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ひとりひとりの生活や生活歴を尊重し、楽しみごとの時間を作ることで、気分転換や喜びを感じて頂くような支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・外出する機会の少ない人には、天気の良い日に散歩したり、誕生日に外出する機会を提供するなどの支援を行っている。本人や家族の意向を把握し、自由に外出できる支援をしている。	季節に応じて四季折々の景色を楽しめるコスモス畑や、お寺などに出かけている。重度の利用者は体調を考慮し、近隣の交流センターなどヘッドライブへ出かけている。家族にも協力を依頼し、外出できるように働きかけしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を所持することで安心する人には、家族の了承を得て、お金を持っていて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族からの電話の際は、居室でお話しして頂く配慮をしている。贈り物が届いたら、必ず電話で本人の声を聞いて頂く様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・人が集うホールの壁には、季節に応じた絵や装飾を心掛けている。	絵が得意な職員2名が、季節感のある飾りつけを利用者と共に行っている。フロアの席には、利用者同士がトラブルにならないように配慮している。温湿度計を随時確認し、快適に過ごせる配慮も行っている。掃除も毎日行っており、清潔な環境が維持できている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにソファを置くことで、利用者が気の合う利用者や職員と気持ち良く過ごせる様、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・畳で寝ていた方には、床にマットや布団を敷くことで安心して休めるよう環境を整えている。 ・居室には、馴染みの人との写真や思い出の装飾品を置くことで、居心地の良い空間を提供している。ホールの証明はやや暗めを心掛けている。	毎日職員が居室の掃除を行っている。馴染みの方との写真を飾られたり、壁には自由にカレンダーなどが飾っている。また、ベッドの向きなど、利用者の要望にも合わせており、同時に使いやすさにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・混乱や行動の失敗が続く人に対しては、職員と一緒に行動することで、「出来る喜び」を感じて頂けるようにしたり、「ありがとう」「助かった」などの声かけをすることで、「役に立っている」感を味わって頂くよう努めている。		